

東京都各種学校日本語学校

自己点検・自己評価項目

(平成30年8月1日制定 第1版)

東京国際知識学院

理事長 五十嵐 優

自己点検・自己評価項目

5：達成している 4：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 2：取り組みを検討中 1：改善が必要

| 1. 教育理念・目的等 | | | 評価 |
|-------------|-----|----------------------|----|
| 1 | 1-1 | 理念・目的・育成人材像は定められているか | 5 |
| 2 | 1-2 | 学校の特色は何か | 5 |
| 3 | 1-3 | 学校の将来構想を抱いているか | 5 |
| 4 | 1-4 | 理念に基づく教育が行われているか | 4 |

<現状・具体的な取り組み/課題>

〈理念〉
 学生と教員スタッフのきめ細かなコミュニケーションにより、学び合い、助け合いながら自らの夢や目標に向かい、明るく粘り強く努力する、たくましい人間の育成を目標とする。東京国際知識学院にふさわしく、自分の考えを持ち、自律して学習し、豊かな心と積極的な行動力を有する留学生を、一丸となって育てる。

〈教育目標〉
 真の学力とは、従来の難関大学入試に必要とされていたような知識力に止まらず、到来しているグローバル社会が求める、未知の問題解決策を見いだす思考力や自己の考えを広く世界に発信する表現力など、いわば創造的学力である。

真の学力の涵養を計ると共に、学び方を大切にし、確実に日本語力を高め、日本語能力試験 N1、N2 に合格することを目指す。

〈育成する人材像〉
 言語によるコミュニケーションをもとに、多様な文化を理解し、国際社会において活躍できる人材を育成する。

本校では、これらの理念や教育目標を実現するために、日本語能力によるクラス編成を行い定期的に見直しを行っている。定期試験の結果だけでなく、学習態度や提出物等も考慮し、3 か月毎に見直しを行っている。短期的に見直しを行うことで、日本語学習に対する意欲の向上に努めている。授業や宿題に使う教材として、時事問題やドラマなども取り入れ、文化や習慣と連動した教育に取り組んでいる。

進路指導にも力を入れており、学内で行う進学説明会では、卒業生などにも参加してもらい、実際に進学を経験した者からアドバイスをもらう機を提供している。留学生の語学力も多様化し、各技能に偏りも多く見られるようになってきた。そのような中で、N2、N1 の合格を達成するためには、個別の学習指導や補習も必要であり、できるだけ行うようにしている。

学外でのボランティア活動への参加など、学校とアルバイト以外でも日本人と交流する機会作り、多様な人柄や考え方に触れることで、両極な思考を養い、国際人としての土台作りに役立っている。

| 2. 学校運営 | | | 評価 |
|---------|-----|--------------------------------|----|
| 5 | 2-1 | 運営方針は定められているか | 5 |
| 6 | 2-2 | 事業計画は定められているか | 5 |
| 7 | 2-3 | 運営組織や意思決定機能は確立され、効果的なものになっているか | 5 |

| | | | |
|----|-----|---|---|
| 8 | 2-4 | 人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか | 5 |
| 9 | 2-5 | 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 4 |
| 10 | 2-6 | 学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか | 5 |
| 11 | 2-7 | 危機管理体制は整備されているか | 5 |
| 12 | 2-8 | 施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう学校教育法に基づき整備されているか | 4 |

<現状・具体的な取り組み/課題>

運営方針や事業計画は役員会で決定され、教職員にも示されている。本校の理事長が統括し、副校長及び事務局長が現場の教職員を統率している。業務上の諸問題に関しては日々の打ち合わせ、毎月行われる幹部会議で報告・議論され、全体会議において方針が示される。教育の面においては、各レベルの分科会で議論が行われ、専任教師会議において現場の提案がなされる。示された提案や意見は幹部会議或いは理事会を経て全体会議及び教師ミーティングを通して知らせ、教職員のあいだで共有している。

人事に関しては、適材適所を基本理念とし、無理無駄の少ない就労環境を作っている。日本語教育機関全体のテーマとなっている教員不足に対応するため、インターンシップ等の育成プログラムの運用開始に向けて構築を急務とする。また、人事評価において、評価基準が明確でない部分について、改善及び整備の必要がある。

職場環境の改善については、職員同士の横の繋がりが円滑で業務協力を積極的に行える環境にあるので、人事異動等で損なわないよう留意する。

開校以来運用している基幹システムにおいて、成績管理及び学費管理の完全なシステム化を構築し、入学期の追加及び増員に備える。

移転後の施設・設備の整備については、防火管理者、防災管理者が選定されており、移転後の消防計画の作成が進められている。さらに、集団退避、避難の訓練の実施に向けて、北区防災課及び危機管理課、警察とも情報交換を行う予定である。

3. 教職員

評価

| | | | |
|----|-----|----------------------------|---|
| 13 | 3-1 | 教育理念・目的が教職員間で共有されているか | 5 |
| 14 | 3-2 | 教育の質を向上させるための取り組みが確率されているか | 5 |
| 15 | 3-3 | 教育評価を行っているか | 4 |

<現状・具体的な取り組み/課題>

本校の教育理念や目的については採用時の研修および全体会議、学期ごとのクラスミーティングにおいて、理事長または校長により周知されている。

各種勉強会、セミナーや学会への参加を推奨し、日本語教育の質的向上に努めている。

管理者による授業見学や学生へのヒヤリングに基づき面談を行い、クラス単位及び教員単位の評価を行っている。

必要に応じて、教員対象にアンケートを行い、カリキュラムや教材の改善または見直しに役立てる。

4. 教育活動

評価

| | | | |
|----|-----|-------------------------------------|---|
| 16 | 4-1 | カリキュラムは体系的に編成されているか | 5 |
| 17 | 4-2 | 授業評価の実施・評価体制はあるか | 4 |
| 18 | 4-3 | 目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか | 5 |

| | | | |
|----|-----|------------------------------|---|
| 19 | 4-4 | 成績評価は適切に行われているか | 5 |
| 20 | 4-5 | 各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか | 5 |

<現状・具体的な取り組み/課題>

本校では日本語レベルによるクラス編成を行っている。学内の成績や各種日本語試験の結果に基づき、クラス単位及び学習者単位で到達度を測定する。測定結果を参考に、レベル毎に到達目標、時間数、教材の見直しを行う。試験結果は、総合点だけでなく科目ごとの評価も行うことで、学習者の苦手を補い、試験結果に結びつく学習指導を行うようにしている。

ひとつのクラスは複数の教員が授業を担当し、専任教員が統括・評価を行う。クラスのレベルと教員の資質や特性を考慮し、教員別の時間割を編成し、担任教員が授業計画を作成する。担任会議により各クラスの進捗を確認し、学習成果によっては、学期中であっても教材の見直しや学生のクラス移動も提案できるようにしている。

成績評価は、A・B・C・Dの4段階を基準に評価している。学期末の成績票では、AとBにそれぞれ「+」「-」のサブ評価を追加し、学習者への学習指導に活かしている。

各種試験対策としては、試験前には通常授業でも対策授業を取り入れ、受験レベルや科目別のクラス編成で補習授業を行っている。

5. 学生支援

評価

| | | | |
|----|-----|---|---|
| 21 | 5-1 | 進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか | 5 |
| 22 | 5-2 | 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか | 5 |
| 23 | 5-3 | 学生の心身の健康管理・自己・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか | 5 |
| 24 | 5-4 | 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか | 5 |
| 25 | 5-5 | 保護者と適切に連携しているか | 5 |
| 26 | 5-6 | 卒業生への支援体制はあるか | 5 |

<現状・具体的な取り組み/課題>

進学については、クラス担任及び進路指導担当の職員が説明会と個別面談を実施している。出願・面接サポート及び研究計画書指導を行っている。必要に応じて、事務職員も進学や就職の指導及びサポートを行い、学生の専門性や経歴に沿った指導を行っている。

教職員向けにも、進学就職に関するセミナーや情報交換会等への参加を推奨し、最新動向や学外の人脈作りを行っている。

学生指導担当には、中国語、英語、モンゴル語で対応可能な職員を配置し、それ以外の言語についてもエージェントへいつでも連絡ができる方法を確保し、学生からの相談に対し母国語で対応できる体制を整えている。学習や生活面で改善されない問題があった場合は、速やかに保護者と連絡ができるように連絡方法を確保している。

学校の近隣に男女別で寮を完備し、管理人の配置や定期的な訪問により監視を行っている。

卒業後の支援にも力を入れており、進路先で問題があった際には、卒業生からの連絡および相談ができるように各種連絡方法を確保している。

6. 在留管理と生活指導

評価

| | | | |
|----|-----|-----------------------------|---|
| 27 | 6-1 | 入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか | 5 |
| 28 | 6-2 | 日本社会を理解するための支援が適切に行われているか | 5 |
| 29 | 6-3 | 我が国の法令を遵守させる指導を行っているか | 5 |

| | | | |
|----|-----|-------------------|---|
| 30 | 6-4 | 常に最新の学生情報を把握しているか | 5 |
|----|-----|-------------------|---|

<現状・具体的な取り組み/課題>

複数の申請取次者を配置し、入管業務を行うとともに、最新動向や法改正について情報の更新を行っている。学生に対しては、母国語による入学時のオリエンテーションや定期的な面談により、留学生としての法令順守の他、ごみの出し方や交通ルール等、日本社会で生活していく上でのマナーや習慣についても理解させるよう取り組んでいる。

学生個別の情報は管理システムで一括管理し、各職員が随時データのメンテナンスができる体制を整えている。また、学生からの相談や面談、家庭訪問を実施した際には、その内容を記録し、管理システムまたは学生ファイルで情報を共有し、閲覧できるようにしている。

| | | | |
|---------------|--|--|----|
| 7. 学生の募集と受け入れ | | | 評価 |
|---------------|--|--|----|

| | | | |
|----|-----|-----------------------------|---|
| 31 | 7-1 | 学生の受入方針は定められているか | 5 |
| 32 | 7-2 | 学生募集活動は、適正に行われているか | 5 |
| 33 | 7-3 | 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 5 |
| 34 | 7-4 | 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか | 5 |
| 35 | 7-5 | 適正な定員設定及び在籍者数になっているか | 5 |

<現状・具体的な取り組み/課題>

大学や日本語学校等の現地教育機関や仲介機関と信頼関係を確保するために、事前に現地説明会を行っている。志望学生については、直接面接を行い、出願情報の内容の確認、学生本人の資質を調査し、極力、保護者や経費支弁者との面談および家庭訪問を行うようにしている。

在校生の動向や紹介元の実績について、募集担当者会議で確認を行い、問題のない学生の募集に努め、募集人員を決定している。

| | | | |
|-------|--|--|----|
| 8. 財務 | | | 評価 |
|-------|--|--|----|

| | | | |
|----|-----|------------------------------|---|
| 36 | 8-1 | 8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 5 |
| 37 | 8-2 | 8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 5 |
| 38 | 8-3 | 8-3 財務について会計監査が適正に行われているか | 5 |
| 39 | 8-4 | 8-4 財務情報公開の体制整備はできているか | 4 |

<現状・具体的な取り組み/課題>

学生総数は常に定員の上限で推移している。中長期的な見通しについては、移転後の増員計画に基づき安定した収支計画を構築している。適切な人員配置と業務の効率化等による経費の適性配分について、社労士や税理士にも相談の上、取り組んでいく体制を確保していく。

| | | | |
|----------|--|--|----|
| 9. 法令の遵守 | | | 評価 |
|----------|--|--|----|

| | | | |
|----|-----|----------------------------|---|
| 40 | 9-1 | 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 5 |
| 41 | 9-2 | 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 |
| 42 | 9-3 | 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか | 4 |

| | | | |
|----|-----|------------------------|---|
| 43 | 9-4 | 自己点検・自己評価結果を公開しているか | 4 |
| 44 | 9-5 | 関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか | 5 |

<現状・具体的な取り組み/課題>

法令の遵守について、徹底できるようシステム化や各種ファイルの管理体制を構築している。用途別、部門別に書庫の割り振りを行い、各部門及び事務局で鍵の管理を行っている。重要情報が記載されている書類の廃棄ようにシュレッダーを導入済みである。入国管理局への定期報告及び学生情報に変更があった際の報告については、遅滞なく行われ、記録の保管もできている。自己点検・自己評価はこれまでに部分的に行ったことはあるものの、総合的に実施したのは今回が初めてである。今後も定期的に実施し、ホームページ等で公開し、問題点の把握と改善に努めていく。

10. 社会貢献

評価

| | | | |
|----|------|----------------------------|---|
| 45 | 10-1 | 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか | 5 |
| 46 | 10-2 | 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか | 5 |

<現状・具体的な取り組み/課題>

平成 29 年度から実施している、地域のゴミ拾い活動を継続して行っている。学外の清掃ボランティアにも学生と職員が同伴で参加したり、花火大会やイベントに参加した際にも、率先して活動できるよう、指導、奨励している。災害時のボランティア活動に参加したいと学生から問い合わせも出ているので、ボランティアの派遣体制の整備やボランティア情報の正確な案内についても、今後取り組む予定である。

<総括>

当校は、平成 30 年度において、体制の変更と移転により、教育の質の向上に取り組む環境が整った。学生ニーズや日本語教育業界を取り巻く環境は今後も急激に変化していくことを予測し、カリキュラムの改編に取り組み、的確に日本語力が向上する教育を提供していく。また、授業や教材において、ICT 技術の活用も検討し、学習者の苦手を補完することで、多様な学習機会の整備に取り組んでいく。今後の取り組みとしては、入学期の追加と定員の増員を行い、それに伴い出身国の広域化にも取り組む。学内の多国籍化により、国際社会において活躍できる人材の育成にとっても、学内の多国籍化は好影響を与えられられる。

責任者 東京国際知識学院 理事長 五十嵐 優

実施期間 平成 30 年 8 月